

2023年6月27日

学校法人三幸学園
福岡ウェディング&ブライダル専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 浅井 大士

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 浅井 大士(アイ・ケイ・ケイホールディングス株式会社 ララシャンズ博多の森支配人)
- ② 須藤 綾佳(BLD WEDDINGS 株式会社/第3期ウェディングプランナー科卒業生)
- ③ 久芳 幸子(西岡総業株式会社)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月27日(会場 福岡ウェディング&ブライダル専門学校 401教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 福岡ウェディング&ブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 藤川 千奈美

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 浅井 大士

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【人材育成について】

- ・業界ニーズ・方向性に合わせた即戦力となる人材を育成する為、カリキュラム変更、企業連携科目を多く設定。
- ・人材育成方針のもとに「ブライダル業界で活躍できる人材を育成する」を2年間の育成軸として指導していく。
- ・知識・技術だけではなく、主体性や考える力などの人間性を磨いていく必要がある。
- ・現代の学生の気質やニーズに対しての理解を深め、指導の仕方、やり方を工夫する必要がある。

【キャリア教育/就職支援の強化】

- ・複数担任制により、学生の相談窓口を整えた。
- ・全体での担任力向上ガイドブック・授業実践ガイドブックを用いて教育の質の向上を図った。
学校で統一した認識を持ち学生対応ができる環境づくりは今後も強化していく。
- ・選考スケジュールの早期化に対して、対策を強化し内定に繋がる指導を行う。
具体的なスケジュール組み、内容の検討が今後も必要。

【学校関係者評価委員会コメント】

(浅井委員)

- ・人材育成：リモート採用がメインだった為、入社後に面接時とのイメージの違いが生じた。
- ・会社も柔軟に変わってきており、社員教育においてそれぞれのいいところを伸ばすように心掛け、悪いところを指摘しすぎないようにしている。
- ・業界としては就職の早期化が進んでいる。

(須藤委員)

- ・採用の早期化が進んでおり、面接も対面に戻ってきている為採用の動きが現場に居てもわかるようになってきた。

3.評価項目の達成及び取組状況**(1)教育理念・目標**

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・教育理念「技能と心の調和」や人材育成像を学校内外に浸透していくことが必要
- ・学生の変化・ニーズによって方法を検討していく必要
- ・インターンシップを通して社会で必要とされる自主性・主体性の強化を図り、業界で求められる人材を育成する
- ・学生の資格取得や知識・技術面を向上させる為教職員の指導力向上と創意工夫が求められる

② 今後の改善方策

- ・現在の学生の変化・ニーズに合わせた対応が出来るように研修を取り入れ把握・対応をしていく
- ・業界の変化や具体的な動きを捉える為にも教育課程編成委員会や企業訪問を通して最新情報の把握が必要
- ・即戦力として活躍できる人材育成に向けて、教科担当教員の知識・技術の手合わせを引き続き実施

③ 特記事項

- ・2022年度より業界ニーズ・方向性に合わせたカリキュラム変更を行い、企業連携科目を多く設定している
- ・即戦力となる人材を育成し、業界理解を深める為、プライダルプロジェクト・企業インターンシップなどの実践的なカリキュラムを中心に企業連携活動に積極的に参加をしている

④ 学校関係者評価委員会コメント**(浅井委員)**

- ・研修時のロールプレイングを細分化(項目化)し振り返りも併せて実施をしている。
 - ・時間の短縮化、端的に伝えることをまとめ集中力が持続するように工夫している。
 - ・一本化した共通の教育を実施(新人研修で全員プランナー研修を実施)。
- 理由:①結婚式の良さを知らない新人もいる②プロデューサーの転勤が多い為

(須藤委員)

- ・学生時代本校の教育理念の「技能と心の調和」は知っていた。
- ・行事を通してクラスが成長した。学生時代に培った関係は価値のあるものであった。チャレンジすることもできた。

精神(メンタル)面が強くないと現場では続かない。指摘を次につなげるように考えることが大切。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・コロナ禍だけではなくICTを使う場面が多い為、理解し利用する能力が求められている
- ・学校運営や授業実施において、著作権利用などの新たな規則や関係法規の理解が必要

② 今後の改善方策

- ・全教員が把握出来るように全体会議などにおいてマニュアルの勉強会・研修を定期的に行う

③ 特記事項

- ・2022年度もオンデマンド授業の実施などハイブリットな取り組みを実施している

④ 学校関係者評価委員会コメント

(浅井委員)

- ・引き続きデジタル化は定着をしている。リモートで会議を実施し録画を行うことで効率化を進めている。
- ・打合わせのオンライン化(遠方者の方にもよい)をしており、隙間時間での打ち合わせが可能、打ち合わせ用のアプリで資料をデータ化し全て格納をすることで効率化に繋がった。
- ・研修は定期的の実施をしているが学生時代に様々なアプリ(Google や Teams 等)を使えるようになっていた方が良い。

(須藤委員)

- ・オンラインでのお打ち合わせになると来館がない分コミュニケーションが少ないことが課題だと感じているが、時間管理や調整意識も癖づくので良いと感じている。
- ・お客様のニーズに合わせて選んでもらうことが可能。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員的能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・インターンシップを通して社会で必要とされる自主性・主体性の強化を図り、業界で求められる人材を育成する
- ・学生の資格取得や知識・技術面を向上させる為教職員の指導力向上と創意工夫が求められる

② 今後の改善方策

- ・即戦力として活躍できる人材育成に向けて、教科担当教員の指導力向上と共通認識を持った指導を行う為研修や教科会の定期的な実施を継続していく。(技術手合わせ含む)

③ 特記事項

- ・コロナ禍以前の体制に戻つつ感染対策にも注意を払った学校運営を実施。(授業・行事)
- ・姉妹校合同で三幸フェスティバルを開催する等行事を実施した
- ・授業の質担保を目的に定期的な教科会や技術手合わせを実施した

④ 学校関係者評価委員会コメント

(久芳委員)

- ・今年からマスクを外し学生の表情が明るくなったように感じる。
- ・挨拶をしっかりしてくれる学生が多い印象がある。

(須藤委員)

- ・インターンシップは実際に働く中でプライダル業界へのモチベーションが上がり「働きたい」と思う気持ちが強くなる。別の職種が向いているなど軌道修正もできる。とても良い経験だった。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・退学率低減に向けて教員間での認識の統一、早期対策を立てる事が必要
- ・卒業後の状況や社会的な活躍及び評価を把握することは課題
- ・選考スケジュールの早期化に対して、対策を強化し内定に繋がる指導を行う。

② 今後の改善方策

- ・複数担任制でのすり合わせ強化を継続していく(認識の統一、伝え方、情報共有)
- ・卒業生の状況把握の為同窓会 LINK を活発に活用していく
- ・卒業生との繋がり強化する為卒業生訪問を強化し、情報収集を行う

③ 特記事項

- ・SANKO LINK を活用し卒業後の情報収集に努めている
- ・複数担任制にて運営をする事により学生に対して手厚いフォローができた
- ・オンライン活用の幅が広がり、学生のペースで繰り返し学ぶことが出来資格取得率向上に努めている

④ 学校関係者評価委員会コメント

(浅井委員)

- ・新入社員には担当先輩をつける体制を整えている。適正で似ているタイプを教育担当にする事で人間関係も良好でストレスは軽減されている。結果退社時間も早くなり、退職も減っている。

(須藤委員)

- ・学生時代にたくさんの資格を取得したことが就職後に役に立った。
プランナーとして提案力に繋がり、パソコン検定も実践面で役に立った。今の学生も検定が役に立つなど良さや選択肢が広がるというメリットを知れば勉強にも身が入る。
- ・資格がある事でお客様に幅広いご提案が出来る事もメリットで、業務効率にも繋がっている。
- ・卒業生同士の情報共有ができればよい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・業界理解を踏まえた早期キャリア教育として、中学校・高等学校との連携は引き続き課題
- ・卒業生支援の内容、SANKO LINK の活用方法は課題

② 今後の改善方策

- ・SANKO LINK の浸透の強化は引き続き行っていく
- ・2021 年度より卒業生用 LINE アカウントを開設し、2022 年度は卒業生が登録出来るように積極的に促しを実施
- ・卒業生用 LINE アカウントを活用し卒業後も繋がれる体制を整える
- ・キャリア教育にて、卒業生講話として現場で活躍する卒業生と在校生の接点の強化を図る
- ・進路活動早期化に伴い、中学校への職業理解へ積極的に参加をしていく

③ 特記事項

- ・経済支援は引き続き、高等教育の無償化・給付奨学金の活用により充実している
- ・学生の生活環境支援として、スクールカウンセラーの配置、複数担任制を引き続き実施を強化している
- ・保護者連携に関しては、学校行事に招待しお子様の学びを見て頂ける機会を作っている

④ 学校関係者評価委員会コメント

(浅井委員)

- ・中途採用向けの求人を出したい企業様が多数いる。学校が卒業生と繋がり、卒業後も就職支援ができる環境を整えておく。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

- ・インターンシップの動機付けの強化
- ・インターンシップでの企業様との連携の強化

② 今後の改善方策

- ・インターンシップガイダンスを設け、学生の動機付けを行い現場に出す
- ・企業様へ学校理念や育成人物像などを理解して頂けるよう企業訪問を強化していく
また学校行事などを見て頂ける機会を増やし連携を図っていく

③ 特記事項

- ・2022年度にドレスルーム・メイクルーム校舎改修、実習施設の装飾をリニューアルし、より現場に近い施設・設備に変更した為、学生も更に実践力が磨かれている

④ 学校関係者評価委員会コメント

(浅井委員)

- ・インターン生の研修も定期的実施している。インターン生に対する伝え方や言葉がけは工夫し
やってみたい事にはチャレンジできる環境を整え、関りをもっと増やしていきたいと思っている。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

・コロナ禍前に進路活動も戻ってきている為、早期対策が出来るように職業理解・学校理解を深める

② 今後の改善方策

・会議などを通して対応教員の業界理解・学校理解を統一出来るように研修をしていく

③ 特記事項

・福岡県専修学校各種学校協会のガイドラインに則り、AO 入試を実施している

・福岡県私学振興課主催同和研修での入試・面接実施内容を確認し、適切に面接を実施している

④ 学校関係者評価委員会コメント

(浅井委員)

・結婚式場コラボイベントは高校生に魅力的なイベント。企業様と学校で Win Win になるように進めていきたい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9) 法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・会議等で全教職員の法令遵守に対する啓蒙を継続的に図る

③ 特記事項

・ホームページ等において情報公開をしている(<https://www.sanko.ac.jp/fukuoka-bridal/information/>)

④ 学校関係者評価委員会コメント

(浅井委員)

・労働環境の整備を進めている。役職者が休みなく働く姿を見せると下の職員が「こんなに働かなくてはいけないのか」と思わせるので良くない。思い切ってやらない事を決めていくことが大切。

(10) 社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

・社会貢献・地域貢献の為、参加可能な地域活動(行事)には引き続き積極的に参加をしていく

③ 特記事項

・博多どんたく、秋のステージ博多等のイベント参加

④ 学校関係者評価委員会コメント

(浅井委員)

・毎日近隣の清掃を実施している。冬には老人ホームの方にイルミネーションを開放している。

(須藤委員)

・シルバー人材の登用を積極的にしている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今回学校関係者委員のみなさまのご意見を聞き、学校のブランディングを大切にしながら選ばれ続ける学校づくりをしていく為に、教育面では今のニーズに合った学生指導・カリキュラム・企業インターンシップ先の幅広い職種確保、授業の運営方法・地域との繋がりを常に考え、修正をしていくことが大切だと認識出来た。また、卒業した後でも相談が出来るパイプ作りは引き続き強化をしていき、愛校心を持ち続けてもらえるように支援をしていくことを努めていく。